

亘理町逢隈地区の日下純子さんは、40年前に趣味がきっかけで始めたブルーベリーを営利栽培している。

栽培のきっかけは高校生の時にアメリカで食べたブルーベリー。味に感激し「いつか自分で栽培してみたい」と考えた。

同町の農家に嫁いだ際に、少量を趣味で栽培していたが、岩手大学名誉教授の故横田清氏のすすめで、平成19年から本格的に栽培を始めた。現在は20aの面積を管理し、生果と自身で加工したジャムを町内の直売所に販売している。

寒冷地に適したノーザンハイブッシュと呼ばれる系統を栽培しており、「酸味と甘さの均整がとれており、皮が薄く、種が小さいのが特徴。生果の食味が良く、加工しても香りが残る」のが特徴だ。

栽培方法は日当たりが良く、収穫が容易な開心自然形と呼ばれる樹形に仕上げている。日下さんは「横田先生の教えどおり、主枝を4本ほど残し、V字を作るように仕上げる」のがコツと語る。

日下さんは「栽培は苦労の連続だったが、周囲の協力でここまでやれた。思い切って始めてよかった」と話す。

日下純子さん



開心自然形で剪定したブルーベリー



【取材】宮城県農業会議